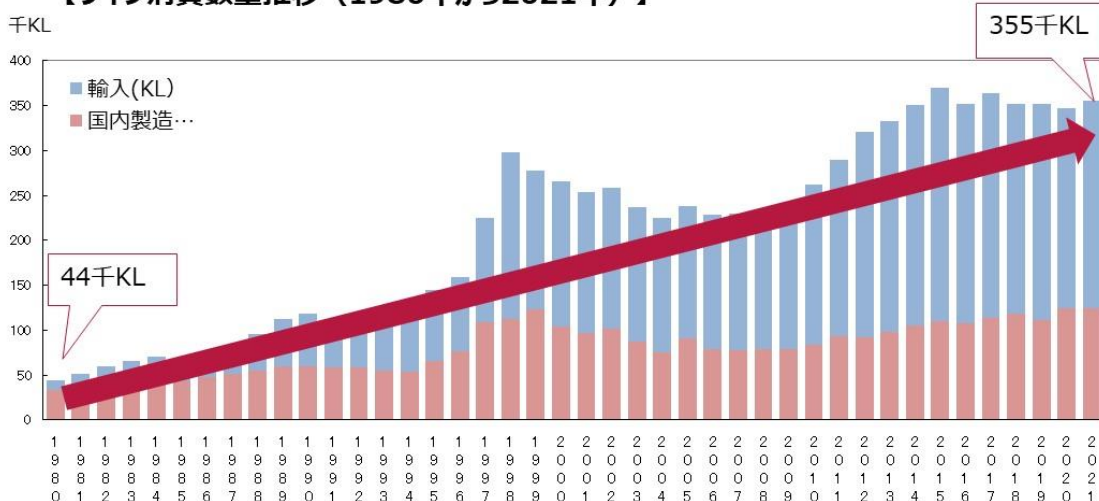


## 日本国内のワイン消費数量は10年間で約1.3倍に拡大 ～スパークリングワインの輸入数量は過去最高に～

### ■消費数量<sup>※1</sup>は40年間で約8倍に。ワインが日常に定着

- ✓ 2021年のワイン消費数量は対前年104%と増加し、10年前と比較すると約128%と市場が拡大しました。
- ✓ 赤ワイン人気により、大きな消費を生んだ第6次ワインブーム（1997～98年）や、チリを中心とした新世界ワインおよび日本産ブドウ100%で造る「日本ワイン」への人気が高まった2012年からの第7次ワインブームなどを経て、日本国内のワイン消費数量は40年で約8倍となるなど、着実に伸長しています。

【ワイン消費数量推移（1980年から2021年）】



※国税庁発表資料を元に、国内製造・輸入別構成比はメルシャン推計。会計年度（当年4月～翌年3月）

### ■スパークリングワインの輸入数量<sup>※2</sup>は前年比約115%で過去最高に。10年間で約160%と拡大

- ✓ 2022年は飲食店などの需要増により市場が回復し、スパークリングワインの輸入数量は前年比約115%で過去最高となりました。10年前と比較すると、約160%と拡大しています。
- 日本でも人気がある「シャンパン」の生産国でもあるフランスが全体の約41%を占め、国別輸入数量1位となりました。

### ■スティルワインの輸入数量<sup>※3</sup>は、フランスワインが1位に。欧州産ワインの構成比は約60%

- ✓ 2022年は、2021年に引き続きフランスワインが国別輸入数量1位となりました。
- ✓ 構成比は輸入量1位のフランスワインが約30%を占め、3位のイタリア、4位のスペインなどを含めた欧州産ワイントータルでは約60%を占めています。

### ■日本産ブドウ100%で造る「日本ワイン」のワイナリー数は前年比110%と増加。

- ✓ 国税庁調査<sup>※4</sup>では2022年1月現在の国内のワイナリー数は453場で、前年より40場増加しました。1位の山梨県、2位の長野県、3位の北海道のほか、5位の岩手県のワイナリー数が増加しています。

※1 国税庁発表の消費数量実績。課税数量とは異なる

※2 財務省関税局調べによる「スパークリングワイン」の数量推移。 ※3 財務省関税局調べによる「ぶどう酒（2L未満）」の数量推移。

※4 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況」

<「ワイン参考資料」詳細は下記を参照ください>

[https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/market\\_wine\\_2023.pdf](https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/market_wine_2023.pdf)